

ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2007年 SUPERGTシリーズ第4戦

2007.6.24

SUPER GT INTERNATIONAL SERIES in MALAYSIA

日本のトップカテゴリーとして、毎回激戦が繰り広げられる SUPER GTシリーズは、海を越えて赤道付近の国、マレーシアのセパンサーキットを第4戦の舞台とする。このサーキットでレースが行われるのは、初期のスペシャルステージを含み7回目となったこともあり、完全にシリーズの一戦として定着。2本のストレートを低速から高速、さまざまなコーナーで挟むレイアウトは、日本のサーキットとはまた違ったテクニカルな性格を持ち、合わせてコース幅も広い事から比較的オーバーテイクし易く、ドライバーからの評価も高い。

しかし、何よりセパンでのレースの特徴として挙げられるのは、猛烈な暑さである。気温は30℃を悠に超え、路面温度は50℃前後、室内温度にいたっては60℃にも達し、マシン、タイヤ、ドライバーすべてに過酷な条件を突き付ける事で知られている。但し、路面の μ (摩擦係数)に関しては、国内のサーキットと比べ低いが、コンパウンドは、日本のサーキットで用いるソフトレンジでの対応も可能。勿論、熱対策は欠かす事の出来ない要素ではある。又、最も重要視されるセクションは、バックストレート手前の右コーナー。ここはブレーキングしながら回り込む為、いかに荷重を掛けて旋回出来るかによって脱出速度も変わり、それがストレートでの最高速も左右する。つまり、全体のタイムに大きく影響するコーナーと云える。

富士スピードウェイで行われたシリーズ第3戦は、ADVANレーシングタイヤ勢にとって、まさに「狙い」とするレースであった。ECLIPSE ADVAN SC430は、内容は予定通りの展開であったが、結果は余りに悔やまれるものとなった。しかし、その後、鈴鹿サーキットで行われたメーカーテストに参加し、更に新たな構造をトライ、特に低速コーナーでのグリップに著しい向上が確認された。セパンでは1~2コーナーで威力を発揮する事が期待される。



又、07モデルが投げられたWOODONE ADVAN Clarion Zは、新たに投入した07用タイヤがマッチ、予選では苦戦を強いられたが、決勝は良好なフィーリングでスタート、しかし残念ながらクラッシュに巻き込まれてリタイヤを喫している。Zにおいても07仕様の正常進化タイヤを投入することから、両車共に雪辱に期待がかかる。一方GT300クラスでは、アクティオムルシエRG-1がポールポジションを獲得。決勝では途中のスピニングが響いて2位に甘んじたものの、ADVANレーシングタイヤのハイパフォーマンスをアピール出来た事から、セパンにも従来通りのタイヤが持ち込まれる事となった。

レースウィークに持ち込まれるGT500クラス用のドライタイヤはSC430、Z共に構造、コンパウンドは2種類。路面温度が40℃以下ならソフトが推奨となり、それ以上ならミディアムとなるが、レンジ幅が広い為、35℃前後でも対応が可能とされている。レインタイヤは構造1種類、コンパウンド2種類。GT300クラスのドライタイヤは構造1種類、コンパウンド2種類。レインタイヤに関しては、コンパウンドはソフトの1種類の用意となっている。今回は合計で約1500本のADVANレーシングタイヤが用意される。

2007年 SUPERGTシリーズ第4戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	2種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	2種類 (S, M)
	サイズ	330/710R18、330/710R17	250/650R18、280/680R18、280/710R18
ウェット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	1種類 (S)
	サイズ	330/710R18	250/650R18、280/680R18、280/710R18

